

LUNA利活用研修の実施報告	1
LUNA活用事例紹介	2
卒業時調査の結果報告	6
発行挨拶	7
FD講演会(初任者研修)の実施報告	8
学修行動と授業に関する調査実施報告とお願い	8

## LUNA利活用研修

高等教育推進センターでは、これまでの「LUNA」講習会に加え、LUNAを利用される機会が少なかった方を対象としてLUNAの操作方法だけでなく、授業での効果的な活用方法等、よりよく授業を運営するための「LUNAの利活用」に着目した研修会を数回のシリーズ形式で開催しています。

研修終了後に実施したアンケートからは、以下の感想がありました。今後も継続して開催しますので、是非ご参加ください。

- ◎やったことがある作業でも便利なやり方がわかって助かりました。
- ◎いろいろな機能があるので、リサーチしてみます。



【開催実績】 講師：時任 隼平 氏(高等教育推進センター 准教授)

第1回 日 時：2019年7月11日(木) 12:50～13:20、13:30～14:00

テーマ：①お知らせ機能の活用 ②教材資料の事前掲載と配付

第2回 日 時：2019年10月2日(水)、3日(木)、4日(金) 12:50～13:20

テーマ：①教材資料の事前掲載と配付 ②学生への連絡 ③出席管理(ICカードリーダーからの連携)

第3回 日 時：2019年10月10日(木) 12:50～13:20、13:30～14:00

テーマ：①テストと自動採点 ②課題レポートの受付 ③成績管理



### ◆2018年度LUNAの利用実績

2018年度利用実績の集計は下表のとおりです。

指標項目	指標の定義	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
1 LMSを利用する授業科目の比率	全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。)	12.2%	34.6%	35.7%	38.7%	40.4%	43.8%	47.6%	50.6%	54.7%
2 LMSを利用する専任教員の比率	全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率。(LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。)	53.9%	59.4%	60.9%	69.8%	73.5%	76.2%	76.9%	80.0%	85.4%
3 LMSを利用する学生の比率	LUNAにアクセスした学部学生数 ÷ 在籍学生数(学部) (1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする。)	65.8%	85.9%	89.0%	92.0%	92.5%	92.3%	93.6%	94.3%	94.0%

LUNAを利用する授業科目の比率は54.7%(前年比+4.1%)、専任教員の利用率は85.4%(前年比+5.4%)でした。また、学生の利用率においても学生94.0%(前年比-0.3%)の結果となりました。

### ◆LUNAサポートでは以下のサービスを提供しています。ご利用ください

- ◎電話・メールサポート …… 電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします
- ◎出張サポート …… 研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数のいずれでも対応可能です
- ◎来室サポート …… 高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします
- ◎授業サポート …… 教員に代わりLUNAの操作方法のオリエンテーションをおこないます
- ◎研修会・講習会 …… 学期の始めに教員向け・学生向けの研修会・講習会をおこないます
- ◎ハンドブック …… 教員向け・学生向けを用意しています
- ◎オンラインマニュアル …… LUNA内に詳細なマニュアルを掲示しています



## 2019年度 社会学部 研究演習 I (ゼミ) の選考 改善の取り組み

## 従来のゼミ選考の問題点

- 学生は教員にメールで選考書類を提出
- ・教員は学生の選考書類が他のメールに埋もれてしまい**一目で確認できない**
  - ・学生は教員に確実に届いたか**不安**
  - ・職員は提出状況を**把握できない**

集約して管理

★効率的に選考実現

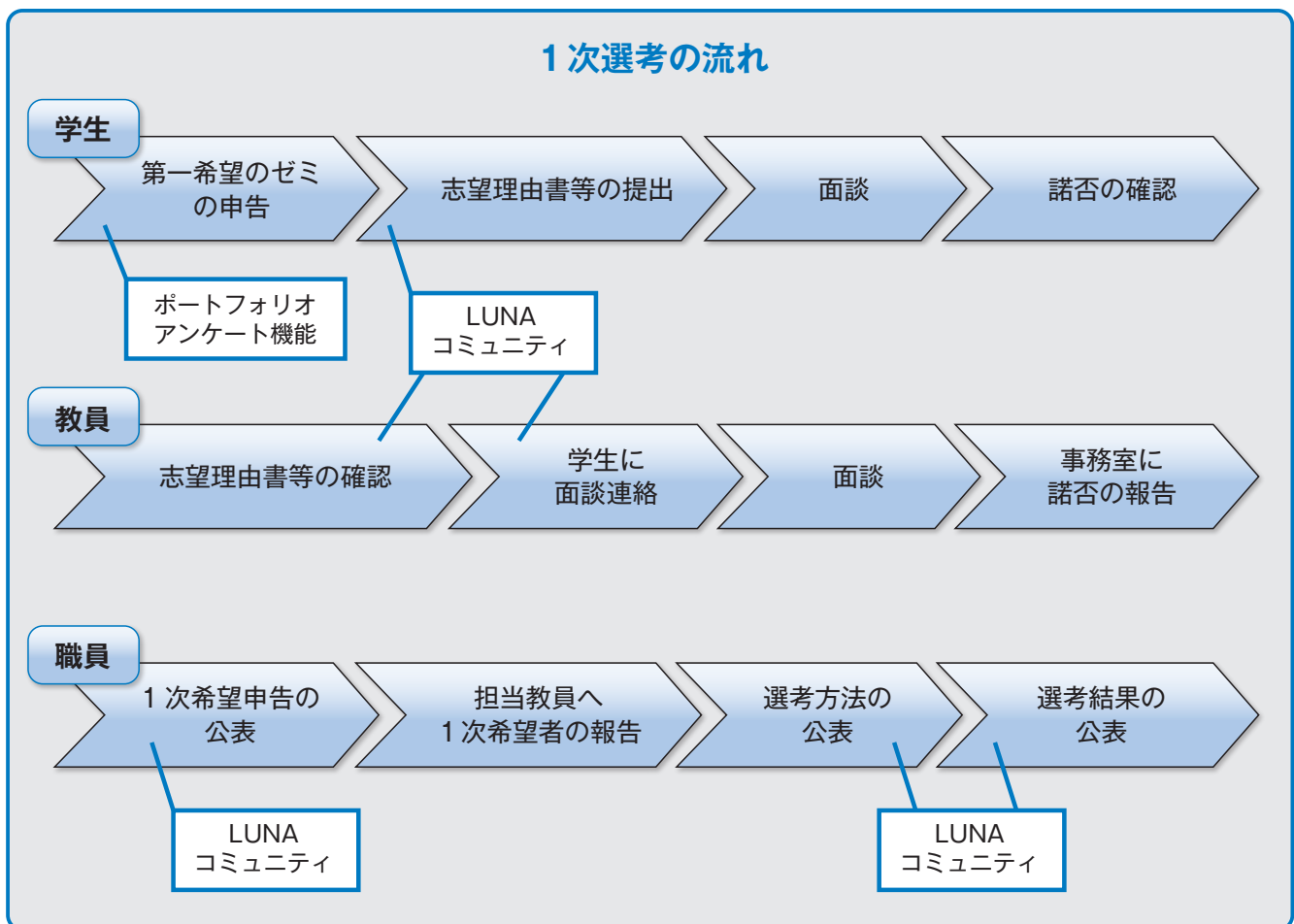
LUNA 利用で解決

## 従来の選考フローを踏襲し、ポートフォリオ・LUNA を活用

## 改善後の効果

- ★学生と教員間でゼミ選考が**円滑に進められた**と教員より評価（後述\*）
- ★学生は選考期間に海外留学先からでも**志望理由書等が提出可能**

## 1次選考の流れ



## ポートフォリオ・LUNA の運用



### 職員の業務

- ポートフォリオ アンケートの設定  
⇒ 第一志望の申告結果を教員へ報告
- 選考対象者全員へ情報発信のためのコミュニティの管理  
⇒ 選考方法/スケジュール/選考結果の掲載
- 研究演習 I ごと 35 のコミュニティへの事前準備  
⇒ 志望理由書等の提出課題を掲載

### \* 教員 評価

- 志望理由書等の提出物が集約され、漏れなく確認できる
- 学生に面談連絡などがお知らせ機能を利用して一斉に配信できる
- 海外留学している学生も同一条件で選考できる

## LUNA 導入の背景

- 社会学部では「レポート」「卒業論文」を LUNA での管理を実践
  - ▶ 2013 年度より基礎演習全クラス（1 年次）は、統一シラバスにより、LUNA で課題提出を義務づけ
  - ▶ 2015 年度より卒業論文全クラスにおいて、LUNA で卒業論文の提出・管理

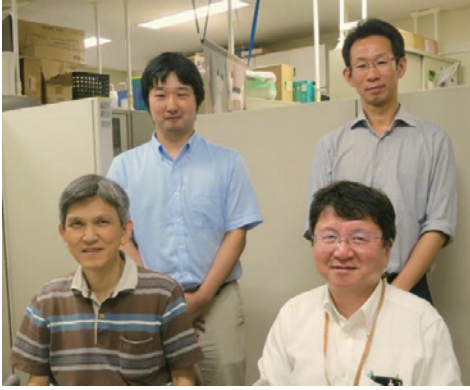


ゼミ選考での LUNA 活用に学生と教員の混乱なしと判断

## 次年度に向けて

- さらなる LUNA の利用を推進
  - ▶ 学生と担当教員間で面談予約に LUNA の機能を利用したい。
  - ▶ 教員から事務室への「諾否の報告」に LUNA の機能を利用したい。
  - ▶ 2 次選考以降も志望理由書等の集約は LUNA に統一し、学生の混乱を避けたい。  
(今年度、2 次・3 次選考では LUNA が従来のメールや直接の提出を教員が選択)

ここでご紹介させて頂いた社会学部の取り組みについて、お問合せはLUNAサポートまでご連絡ください



## 理工学部

栗田 厚 先生・松浦 周二 先生・阪上 潔 先生・平賀 純子 先生

中沢 寛光 先生・飯田 佑輔 さん ご活用事例

## ・ LUNA を使っている科目

⇒理) 基礎物理学実験 I 1 (2019 春・金・4 金・5)

⇒理) 基礎物理学実験 I 4 (2019 春・金・1 金・2)

## ・ LUNA で使っている機能

⇒課題レポート機能・グループ機能・公開条件機能・成績管理機能

## 大容量ファイルの課題レポートでも、グループと公開条件を利用することで

## レポートの受領と学生へのフィードバックが可能

将来的に大人数科目 (10 名 × 10 班) にて実験レポート (PDF) を 10 回分収集し、各レポートにコメントを付けた後に返却することを考え、試行的に LUNA で行った。

電子化を図るには、**学外のサービス (オンラインストレージ・メール)** の選択肢もあったが、学外のサービスでの懸念事項が LUNA では解消できるため LUNA を利用することにした。

実験レポートは文章だけでなく、数式やグラフ、写真といった様々な画像を盛り込んだ PDF であり、ファイル容量が大きくなることが予想されたため、LUNA の課題レポート機能に公開条件を設定することにより、スムーズに実験レポートの受領ができた。コメントを付けた PDF も学生に LUNA からフィードバックが行え、実験レポートの電子化が実現できた。

学生もフィードバックの確認がオンラインで行えるので、復習に役立っている。

## 学外のサービス (オンラインストレージ・メール)

- ・サイトの選定が必要
- ・アカウントの登録が必要
- ・専用メールアドレスの作成が必要
- ・大量のメールが煩雑にならないよう管理が必要
- ・漏洩などセキュリティが心配

LUNAで  
解消!

## LUNA

- ・新たにファイルを受け入れるサイトの選定が不要
- ・学生からの提出物の仕分けが不要
- ・データでの回収、データでのフィードバックが可能
- ・学内の閉じられた環境を使うためセキュリティが安心

学外のサービスでの心配事が LUNA では解消できる ⇒ LUNA を選定

## LUNA で行う実験レポートの条件

- ・100 名分、10 の実験テーマでレポートを収集
- ・1 回の実験では 1 つのテーマを実験する
- ・10 班それぞれ違う実験を行う
- ・文章・数式・グラフ・写真からなるレポート
- ・提出ファイルは PDF
- ・学生一人につき 10MB (予想値) のファイル容量

LUNA は大きい容量のファイルを  
学生が提出しても大丈夫なのか?

- 学生からの提出は可能
- 提出物の一括ダウンロードにて、ZIP ファイルが作成できなかったり、正しく展開できない場合がある

ということは…

課題レポート作成時に工夫すれば実現可能

## 工夫した point

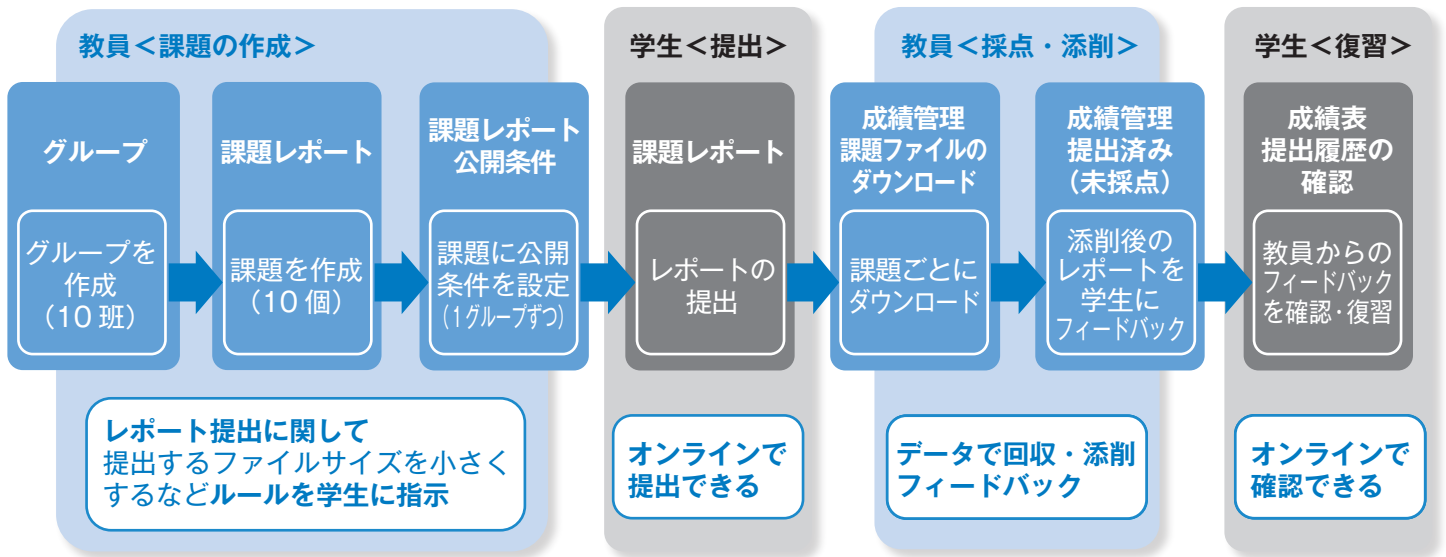
## 1 課題レポートをダウンロードする際に大容量にならないようにする

- 実験の班 (10 班) ごとにグループを作成
- 実験テーマごとに課題レポートを作成
- 学生にはレポートファイルの容量を小さくするよう指示
- 期日ごとにダウンロード

## 2 複数ある課題レポートの提出先を学生が迷わないようにする

- 課題レポートに公開条件を設定し、学生画面では提出する課題レポートのみ表示

## 使用する機能 と レポートの流れ



## 使用して良かった点

### 教員

- ・紙を持ち歩かなくてよく、いつでも、どこでも採点できる。紛失や保管場所の確保の心配がなくなった。
- ・提出物 (PDF) がデータとして管理できることがとてもよかった。
- ・文字だけでなく、図や写真といった内容のレポート (PDF) に、タッチペンで直感的に添削できた。理系のレポートにはメリットが大きい。
- ・添削では紙に書き込むのと違い、修正が安易。
- ・公開条件を設定することで、ダウンロードされた ZIP ファイルを班別に仕分けすることができた。
- ・心配していたレポートのダウンロードに要する時間は早く、**1分以内 (74名: 95MB、66名: 76MB)** で収まった。

### 学生

- ・きめ細やかなコメントを教員からフィードバックしてもらえるのがよい。
- ・一人暮らしでプリンタがない学生にとって、ファイルで提出できるのがよい。
- ・パソコンの扱いに慣れている学生からは「レポートの作成が楽になった。」「きれいなレポートが作成できる。」「いつでもどこでも提出できるのが良い。」などの声があった。

### 【課題】

学生に添削後のレポートを返却する際、100名近い学生に対してファイルを一つずつ選択しなければならず煩雑なため、返却時にファイル名から学生番号を読み取って自動返却できる機能があればよい。

▶「提出済み (未採点)」にて学生の絞り込みを行い、コメント欄へのファイルの添付をドラッグ&ドロップで行うと作業の軽減が可能。

評価は、LUNA に得点ファイルをアップロードすることで、一度に登録することが可能。(LUNA サポート)

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください

LUNAサポート → LUNAの操作方法【教員用】(左側のメニュー)

- ☆グループ ▶ グループワーク ▶ グループセットの作成
- ☆公開条件 ▶ 課題レポート機能 ▶ 特定のユーザに教材やテスト、課題レポートを公開する
- ☆提出済み (未採点) ・ フィードバック ▶ 課題レポート機能 ▶ 課題レポートの採点
- ☆課題レポートの一括ダウンロード ▶ 成績管理 ▶ 課題ファイルの一括ダウンロード



# 2018年度「卒業時調査」結果

関西学院大学の2018年度学部卒業生を対象として、大学生生活の満足度や卒業時に身につけている能力、進路への満足度などを確認する調査を行いました。

## 調査概要 >>>

- 目的：現在、関西学院大学が推進している「Kwansei Grand Challenge 2039」の長期戦略にもとづく調査で、2018年度に新たに調査を設計し実施しました。  
大学教育の成果を検証し、PDCAサイクルを循環させる観点で、在学時の「学生調査」、卒業後の「卒業生調査」に加え、この調査で卒業段階の学修成果を把握します。
- 期間：2019年3月18日(月)卒業式当日
- 対象：2018年度学部卒業生全員
- 実施方法：卒業式後、ゼミ等において各種書類を配付する際に、調査票を配付し、記入・回収までを行う。
- 回答方式：記名式

## TOPICS >>>

- ▶ 2018年度に新たに設計し実施した調査。卒業生の約**90%**が回答！  
回収率を高くキープできたのは、ゼミ担当教員、学部事務室職員の協力があったこそ。
- ▶ 卒業式の日、学生にとっては高揚感を覚える日であったためか、全体的にポジティブ回答が目立つ。
- ▶ 大学生生活の満足度、卒業後の進路の満足度は高く、自分の将来についても明るい希望を持っている！
- ▶ 関学生が卒業時に学部の別なく共通に身につけるべき“知識・能力・資質”「Kwansei コンピテンシー」その身についた程度は、全体的に高い。「多様性への理解」がトップ。
- ▶ 一方で、大学生生活でやり残したことがある学生は意外に多い。  
トップ3は「留学(約23%)」「勉強(約16%)」「部活動・サークル活動(約9%)」
- ▶ 自由記述欄(関学への意見)では、学生支援や施設・設備等の学生サービスに対する厳しい意見も。

## 主な内容① >>>

<p>スクールモットーは、 普段どれくらい意識している？</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>意識する</th> <th>意識しない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	意識する	意識しない	50%	50%	<p>関西学院大学の 教育内容・環境についての評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足	不満	91%	2%
意識する	意識しない								
50%	50%								
満足	不満								
91%	2%								
<p>卒業後の進路</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足	不満	86%	2%	<p>大学生生活でやり残したこと</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ない</th> <th>ある</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38%</td> <td>58%</td> </tr> </tbody> </table>	ない	ある	38%	58%
満足	不満								
86%	2%								
ない	ある								
38%	58%								

## 主要内容② >>>

学部の区別なく共通に身につけるべき“知識・能力・資質”「Kwansei コンピテンシー」卒業時には、どの程度身につけていますか？

	大変身についた	やや身についた	どちらともいえない	あまり身につけていない
幅広い知識・深い専門性	29%	58%	9%	2%
多様性への理解	44%	47%	6%	1%
論理的な思考力	29%	54%	13%	2%
主体的に行動する力	33%	48%	15%	2%
生涯にわたって学び続ける力	31%	49%	16%	2%
豊かな人間関係を築く力	42%	42%	12%	2%
対立する価値を調整する力	29%	50%	17%	2%
困難を乗り越える粘り強さ	40%	44%	11%	1%
よりよい社会に変革する情熱	26%	44%	22%	5%
誠実さと品位	35%	48%	13%	2%

### ＝第17号発行にあたって＝

2019年度最初のニュースレターをお届けします。

巻頭特集は、「LUNA利活用研修」です。7/11、10/2~4、10/10に開催された研修について詳細に記しています。昨年までのLMS関連の研修ではシステムの操作方法に力点を置いていましたが、今年度からは実際の教育の現場での具体的な活用事例に力点を置いたハンズオンのわかりやすい講習へと発展しています。一度で取り上げるトピックを絞り、より実践的で取り入れやすい講習となっています。

後半には、昨年から全学部で開始した卒業時調査についての報告があります。皆様の協力で回収率は90%を超えるものとなっており、全国の同様の調査と比較しても好調な滑り出しとなりました。卒業式当日のお忙しい中での運用ではございますので、さらに少しでも円滑な運用となるよう努力を進めてまいります。

また、今年度から初任者研修の内容をさらに充実させ、各機構の紹介については基本的に機構長が説明をする形とし、本学が現在抱えている諸課題をより身近に感じていただけるようにしました。さらに研修後半には、政策的な流れから眼前の施策まで視野を広げ、学内外の重要課題について突っ込んだ研修へと進化しています。

高等教育推進センター副長(高等教育推進センターニュースレター編集長) 江原 昭博

## FDに関する講演会 —2019年度新任教員研修—

開催日時：2019年4月6日(土) 9時～15時35分

本学に新たに着任した教員を対象とした、新任教員研修が4月6日に開催されました。

村田学長より「関西学院大学の教育目標」についての講演をはじめ、舟木院長よりスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」や「ミッションステートメント」についての講演が行われるなど、本学の教育理念や教育目標について理解を深めていただく講演が行われました。

また、昨年度からプログラムを拡大し、富田学生生活動支援機構長より「授業における学生への配慮について」の講演、嶺重ハラスメント相談センター長より「ハラスメントについて」の講演が行われ、教育、研究のみならず、学生への対応や本学におけるさまざまな取り組みや支援体制についての講演が行われました。

午後からのプログラムでは、江原高等教育推進センター副長より、シラバスに関する本学の取り組みや執筆時のポイントについての講演、認証評価や私学助成など政策に関する講演などが行われ、FDを通じた教育力向上の機会となりました。

講演終了後に実施したアンケートからは、「関西学院大学の歩みがよく分かった。また、創立当初から続く理念、こめられた思いがよく分かった。」「学生支援の仕組みが本当にしっかりしていることを頼もしく思う。」等の感想があり、新任教員の今後の活動へとつながる有益な講演会となりました。



## 学修行動と授業に関する調査

## 春学期の回収状況と秋学期の調査期間のお知らせ

2019年度春学期のマークシート方式による実施率は98.8%(2018年度春学期98.2%)と、多くの先生方のご協力によりほぼすべての授業で実施されました。

また、LUNAを利用したWebによる調査方式では、Webの対象科目のうち学生からの回答があった科目は全体の75.6%(2018年度春学期74.3%)でした。

本調査の目的は①学生の学修行動・成果の振り返り、②授業担当者による次年度以降の授業内容や授業方法の改善の促進、③授業環境について組織的な改善に結びつけること、の3点です。なお、各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「FD活動報告」をご覧ください。

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## ◆秋学期の実施スケジュール

<マークシート方式>

2019年12月6日(金)～12月19日(木) [予備期間：2019年12月20日(金)～2020年1月10日(金)]

<Web方式>

2019年12月6日(金)～2020年1月10日(金)

※実施要領・調査対象科目等の詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者にご連絡いたします。

## 高等教育推進センターニュースレター

2019年11月1日

発行：関西学院大学高等教育推進センター

TEL：0798-54-7420 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<https://www.kwansei.ac.jp/highedu/>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せください。寄稿も歓迎いたします。✉ [HighEdu@kwansei.ac.jp](mailto:HighEdu@kwansei.ac.jp)